

# 名古屋大学 国語国文学 107

## 2014年11月

- 平中「ありはてぬ」詠受容に見る女人の生……………玉田 沙織 (1)  
 禪寂作『月講式』について—東から西へ往く本尊—……………猪瀬 千尋 (15)  
 越境する『蛇にピアス』、ファルス不在の「快樂」—日中作家作品比較を通して—  
 ………………陳 晨 (31)  
 1930年代後半における雑誌『モダン日本』の編集体制  
 —前線と銃後、植民地朝鮮をめぐる—……………張 ユリ (63)  
 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』における〈記憶〉の発見  
 —〈街〉から〈世界の終り〉へ—……………王 静 (75)  
 感情動詞オソルのヲ/ニ格選択について—中世和漢混交文を中心に—……………松野 美海 (94)  
 書評 中澤信幸著『中近世日本における韻書受容の研究』……………村井 宏栄 (95)  
 釘貫 亨著『「国語学」の形成と水脈』……………内田 智子 (105)  
 日比嘉高著『ジャパニーズ・アメリカン移民文学・出版文化・収容所』  
 ………………北川扶生子 (115)  
 新刊紹介  
 大井田晴彦著『竹取物語—現代語訳対照・索引付』  
 ・安藤徹ほか編『かぐや姫と絵巻の世界  
 —一冊で読む竹取物語 訳注付』……………東 望歩 (123)  
 瀬崎圭二著『海辺の恋と日本人 ひと夏の物語と近代』……………永井 真平 (124)  
 神野志隆光著『万葉集をどう読むか—歌の「発見」と漢字世界』……………新沢 典子 (126)  
 沖森卓也編著・山本真吾・齋藤文俊著『漢文資料を読む』……………松尾 譲児 (128)  
 初山洋介ほか編『認知日本語学講座第2巻 認知音韻・形態論』……………長澤 理恵 (129)  
 初山洋介著『〇×チェックでみるみるわかる 教養のある日本語 教養のない日本語』  
 ………………小出 祥子 (131)  
 藤井隆著『私のあゆんだ道—和本ひと筋七十年—』……………玉田 沙織 (132)  
 犬飼隆・和田明美編『語り継ぐ古代の文字文化』……………阿部 裕 (134)  
 深津睦夫著『光厳天皇』……………安田 徳子 (135)  
 市瀬雅之・城崎陽子・村瀬憲夫著『万葉集編纂構想論』……………眞野 道子 (137)  
 阿部泰郎・伊藤信博編『『酒飯論絵巻』の世界  
 —日仏共同研究(アジア遊学172)—』……………菊岡 美帆 (138)

名古屋大学  
国語国文学会

## 編集後記

名大国語国文学の最新号をお届けします。今回は、文学五編、語学一編、書評三編と新刊紹介十一編です。多様で盛り沢山な構成をお楽しみください。投稿論文はもちろんです。書評や新刊紹介も学術論文にはなくてはならない存在です。著者と紹介者との、ある意味での緊張感が純粹な論文にない格別の奥行きを見せてくれます。この際は非ご一読ください。

名古屋大学国語国文学 第百七号

印刷 平成二十六年十一月十日

発行 平成二十六年十一月十日

編集 名古屋市千種区不老町

名古屋大学文学部内

名古屋大学国語国文学会

(代表) 釘 貫 亨

〈振替 00860-0-19333〉

TEL (〇五二) 七八九一二九二

内線 二二九二

印刷所 名古屋市西区那古野一―二―一四

株式会社 カ ミ ヤ マ

TEL (〇五二) 五六五―一一一八